広報 なりた 市民を大切にする市政

成田歴史玉手箱

●19回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

成田屋・市川団十郎

歌舞伎界の名優 代々成田山を深く信仰する

初代団十郎（成田山霊光館所蔵）

市川団十郎の歌舞伎を見ていると、客席から「成田屋！」と掛け声が掛かります。この「成田屋」とは、市川団十郎家の屋号です。

市川家と成田の結び付きは、初代団十郎の父堀越重蔵が下総国埴生郡幡谷村（現在の成田市幡谷）の出身であったことに始まります。初代団十郎の曽祖父にあたる堀越十郎は甲州の武士でしたが、後に北条氏康の家臣となり、小田原城落城後の天正年間末ごろに下総の幡谷村に逃れて移住したといわれています。

初代団十郎は、万治3年（1660）に父重蔵と母おときの間に生まれました。14歳で初舞台を踏み、紅と墨とで顔をくまどり、江戸荒事歌舞伎の創始者として、また歌舞伎界の第一人者として絶賛された役者でした。しかし、跡継ぎには恵まれず、成田山に祈願したところ、その御利益で男子を授かることができました。以来、市川家と成田山の結び付きは強まり、二代目団十郎を「成田山の申し子」と呼び、自分の屋号を「成田屋」にしたといわれています。

初代団十郎の碑

その後の市川家は、成田山新勝寺不動尊の熱心な信者となり、中でも信仰があつかったのは七代目団十郎です。江戸に出られない村人のために成田村で奉納芝居を行い、文政4年（1821）には、千両をもって成田山に額堂（絵馬堂）を寄進しています。額堂には当時の著名な画家の絵馬などが掲げられました。晩年の天保13年（1842）には、水野忠邦の天保の改革による奢侈禁止令に触れ江戸を追放されましたが、そのとき身柄を預かったのは成田山内にある延命院でした。この間、村人と句会を催したり芝居を教えたりし、地方文化の向上に大きく貢献をしました。また、嘉永5年（1852）の引退興行の刷り物の文中には、「代々連綿トシテ血統ヲ絶ヤサザルハ是全ク成田山ノ利益」と書かれており、その信仰の深さを物語っています。

幡谷地区の東光寺境内には、昭和39年9月に十一代目団十郎によって建立された「市川団十郎先祖居住の地」と刻まれた碑があります。

また、隣接する共同墓地内にある堀越家の墓には「初代団十郎の碑」が建てられています。

成田山棟揚げの図　中央後列右の老人が七代目団十郎（成田山霊光館所蔵）

編集後記

「ことしの主な出来事」といえば、何といっても成田空港の暫定平行滑走路の供用開始が最大のニュースではなかったでしょうか。また、保健福祉館のオープンも明るい話題でした。そして日本中が熱狂したワールドカップサッカー。本市には、準優勝したドイツなどの有力チームが宿泊や練習に。しかし、各チームの厳重な警備には驚きました。本紙記者も取材はできず、掲載写真も遠方よりカメラに収めたもの。本市でキャンプを行い、市民と交流を深めていればドイツはきっと優勝だったのに、と大会後は愚痴の一つもこぼしたくなりました。いろいろな「出来事」がありましたが、ことしもあとわずか。来年も、明るい話題だけで紙面を埋めたいものです。

広報なりたは再生紙を使用しています。